

早稲田大学 オープンカレッジ 2018年05月19日

“焼き物”の故郷・愛知県

【寄藤 昂】

1. はじめに

1.1 “焼き物”とは

- 「土と水と火」だけで作られる
- 「自由な形」をつくることが可能に
- 人類が最初に手に入れた「容器」
縄文土器～弥生土器
- 最も古い「工業製品」
須恵器以降、専業化！

必要な条件は

- 良質な粘土が採れること
- 真水が豊富に得られること
- 燃料としての木材が豊富に得られること
- 技術・技術者が伝来、交流すること

日本は、これらの条件全てに恵まれた国だった。

1.2 “焼き物”の歴史

日本陶磁年表 I

参考資料:文部科学省「セラミック工業」



土師器

埴輪

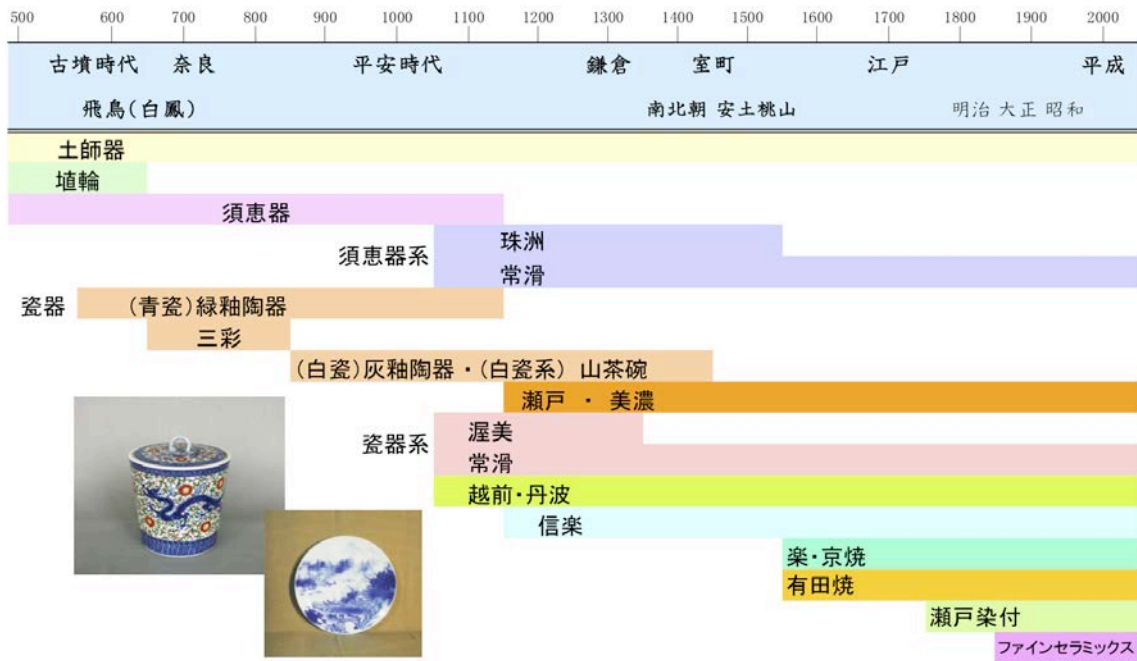
須恵器



須恵器

日本陶磁年表 II

参考資料: 文部科学省「セラミック工業」



『六古窯』

④ 信楽窯(滋賀県 信楽町)

近畿地方を代表する窯業地帯。赤褐色に白い粒の地は特徴的。壺が特に愛好されている。

③ 越前窯(福井県 織田町)

無釉の甕・壺・すり鉢といった日常生活用具を主に生産。特に壺は種類が豊富。

⑥ 備前窯(岡山県 備前市)

須恵器生産の技術を基にし、15～16世紀には西日本最大の窯業地になる。以前は伊部焼と呼ばれていた。

① 瀬戸窯(愛知県 瀬戸市)

良質の陶土が豊富で技術的な伝統にも恵まれた土地である為に榮える。日常生活用品を主に生産。



⑤ 丹波窯(兵庫県多気郡)

平安時代末期から窯の炎の絶えない産地。壺・甕・すり鉢が主要な製品。

② 常滑窯(愛知県 知多半島)

無釉の生活用器(壺・甕・鉢)を大量に生産。後に大型の甕(かめ)が主要になる。

1.3 “産地”の形成

- 良質な粘土・陶石が採れること
- 水と燃料が豊富に得られること
- 製品の運び出しに港が使えること
- 技術・技術者が伝来、交流しやすいこと

いわゆる食器用陶磁器の2大産地は、

佐賀県有田町・伊万里市、長崎県波佐見町

岐阜県多治見市・土岐市・瑞浪市、愛知県瀬戸市

2. “焼き物”の種類

2.1 用途による分類

分類	用途の例
食卓用陶磁器	和食器、洋食器、茶器 など
土木建築用陶磁器	タイル、陶壁、テラコッタ*、瓦 など
衛生用陶磁器	洗面器、便器、浴槽 など
装飾用陶磁器	花瓶、額縁、装飾タイル、人形 など
理化学用陶磁器	蒸発皿、ビーカー、乳鉢 など
電気機器用陶磁器	碍子、碍管、電気材料 など
その他工業用陶磁器	耐酸びん、工業材料 など

日本陶業連盟 HP より編集

* テラコッタ：素焼の焼き物

2.2 製法による分類

土 器	粘土を原料とした無釉・素焼 700～800 度で焼いたもの。屋根瓦(黒瓦)や植木鉢など		
炆 器 (せっき)	アルカリや鉄を多く含む粘土を使い 1200～1300 度の高温で長時間焼いたもの。火鉢、茶器、屋根瓦(耐寒)など		
陶 器	吸水性のある粘土質の素土に釉薬を施し、1200 度前後で 焼いたもの。食器類、美術工芸品、建築用タイルなど		
磁 器	石の粉に粘土や石英などを混ぜた陶石を原料とし、1300 度前後の高温で焼いたもの。食器類や碍子、モザイクタイルなど		

日本陶業連盟 HP より編集

3. 地域別生産量

3.1 統計上の区分

21 窯業・土石製品製造業

211 ガラス・同製品製造業

212 セメント・同製品製造業

213 建設用粘土製品製造業（陶磁器製を除く）

214 陶磁器・同関連製品製造業

215 耐火物製造業

216 炭素・黒鉛製品製造業

217 研磨材・同製品製造業

218 骨材・石工品等製造業

219 その他の窯業・土石製品製造業

今回注目するのは、

- 213 2131 粘土かわら製造業
- 2132 普通れんが製造業
- 2139 その他の建設用粘土製品製造業
- 214 2141 衛生陶器製造業
- 2142 食卓用・ちゅう房用陶磁器製造業
- 2143 陶磁器製置物製造業
- 2144 電気用陶磁器製造業
- 2145 理化学用・工業用陶磁器製造業
- 2146 陶磁器製タイル製造業
- 2147 陶磁器絵付業
- 2148 陶磁器用はい（坯）土製造業
- 2149 その他の陶磁器・同関連製品製造業

3.2 窯業・土石製品製造業（21）の地域分布 * 百万円

上位 10 県	事業所数	従業者数（人）	出荷額等 *	シェア	累積シェア
全国計	9,974	237,733	7,332,194	1,000.0	
愛知	775	25,085	761,433	103.8	103.8
福岡	342	12,658	410,934	56.0	159.9
岐阜	783	17,491	370,160	50.5	210.4
滋賀	217	7,208	344,390	47.0	257.3
茨城	408	9,510	337,096	46.0	303.3
神奈川	239	8,185	310,596	42.4	345.7
兵庫	347	8,550	309,666	42.2	387.9
千葉	227	7,441	273,172	37.3	425.2
埼玉	374	7,839	272,273	37.1	462.3
三重	264	7,429	243,903	33.3	495.6

平成 26 年工業統計表「産業編」データ [平成 28 年 3 月 11 日公表]
「産業中分類別事業所数、従業者数等」
従業者 4 人以上の事業所に関する統計表

出荷額上位の県の、福岡、茨城、千葉、埼玉は、
ガラス、セメント・コンクリート関連が多い。

4. 品目別の地域分布

4.1 屋根瓦

213111	いぶしかわら		
	金額 (百万円)	シェア	事業所数
全国計	9,713	1,000.0	88
愛知	4,257	438.3	21
兵庫	3,299	339.6	30
奈良	563	58.0	3
岐阜	551	56.7	6

213112	うわ薬かわら、塩焼かわら		
	金額 (百万円)	シェア	事業所数
全国計	36,972	1,000.0	69
愛知	28,682	775.8	35
島根	4,620	125.0	11
兵庫	954	25.8	6
新潟	905	24.5	4

愛知における産地の中心は西三河の、刈谷市・高浜市・碧南市である。

4.2 衛生陶器

214111	衛生陶器（附属品を含む）		
	金額 （百万円）	シェア	事業所数
全国計	65,517	1,000.0	33
愛知	36,320	554.4	7
滋賀	12,677	193.5	13
福岡	9,034	137.9	4

愛知には INAX（LIXIL）、滋賀と福岡には TOTO が立地する。
ともに森村グループから発展した企業であり、現在では世界で1・2を競う存在となっている。

4.3 和洋飲食器

214211	陶磁器製和飲食器		
	金額 (百万円)	シェア	事業 所数
全国計	30,627	1,000.0	585
岐阜	12,701	414.7	152
佐賀	5,853	191.1	94
長崎	4,882	159.4	57
愛知	1,694	55.3	63
石川	847	27.7	20

214212	陶磁器製洋飲食器		
	金額 (百万円)	シェア	事業 所数
全国計	14,613	1,000.0	134
岐阜	8,184	560.0	52
石川	2,893	198.0	5
三重	1,288	88.1	6
佐賀	874	59.8	18
愛知	535	36.6	17

表のように、食卓用の陶磁器では愛知はさほど優位に立っていない。
 圧倒しているのは岐阜（東濃）と佐賀（有田）・長崎（波佐見）である。

4.4 工業用陶磁器製品

214411	がい子、がい管		
	金額 (百万円)	シェア	事業 所数
全国計	36,131	1,000.0	59
愛知	20,711	573.2	38
岐阜	5,884	162.9	4

214412	電気用特殊陶磁器		
	金額 (百万円)	シェア	事業 所数
全国計	6,775	1,000.0	24
愛知	4,008	591.6	13

214511	理化学用・工業用陶磁器		
	金額 (百万円)	シェア	事業 所数
全国計	74,126	1,000.0	16
愛知	53,314	719.2	10

碍子：日本ガイシ　スパークプラグ：日本特殊陶業
いずれも、森村グループから発展した企業。

5. 愛知県陶磁器産業の発展

5.1 猿投から瀬戸へ（日本セラミックス協会の資料による）

古墳・飛鳥時代（須恵器）

古墳・飛鳥時代に作られた「須恵器」は、大陸・朝鮮半島から伝来した新しい技術に基いてろくろで成形、丘陵斜面に築かれた「窖窯」でより高い温度で焼成された。還元炎で焼かれるため、素地は灰黒色で堅く、盃、杯、碗、壺などが作られた。古墳中期から平安時代にかけて作られ、焼成中にかかった灰が溶けて、自然釉となったものもある。



樽形（大阪府堺市大庭寺）
大阪府文化財センター所蔵

奈良時代（奈良三彩）

施釉陶器が焼かれるようになったのは7世紀の後半。緑釉の陶器に次いで、8世紀になると三色の粕をかけた奈良三彩が作られた。

奈良三彩は中国の唐三彩の影響で作られたもので、「緑釉陶」は人為的に釉をかけたわが国で最初の「やきもの」と思われる。奈良三彩の釉は緑釉と同じ低火度の鉛釉。



奈良三彩壺（重要文化財）

九州国立博物館所蔵

平安時代（平安のやきもの）

須恵器に続き、平安中期 10 世紀後半になると、尾張東南部（愛知）の猿投窯（さなげよう）では灰釉陶器の生産体制が整えられ、焼成方法も還元炎から酸化炎へと転換、白い焼上がりが得られるようになった。平安時代末 12 世紀頃から、猿投窯では次第に無釉の浅い碗型の鉢や皿がを中心に大量生産が可能な日用雑器である「山茶碗」を焼くようになった。



緑釉四足壺（重要文化財）

九州国立博物館所蔵

鎌倉・室町時代（鎌倉期～室町期のやきもの）

猿投窯の流れを汲む瀬戸は施釉陶の窯として製陶の中心地となった。瀬戸では中国の製陶法を参考に、祭器、仏器、日用品などの施釉陶器が作られた。

この時代には現在六古窯と呼ばれる愛知県の常滑窯・瀬戸窯、福井県の越前窯、滋賀県の信楽窯、兵庫県の丹波窯、岡山県の備前窯の六窯をはじめ、各地で製陶が盛んになり、それぞれの窯で特色のある製品が作られていた。



黄釉瓶〔古瀬戸〕（重要文化財）

白山長瀧神社所蔵

安土・桃山時代（桃山期のやきもの）

茶の湯の流行に伴いやきものが日本独特の特色を持つようになった。瀬戸や美濃地方では、志野・黄瀬戸・瀬戸黒・織部という施釉した茶碗・水差・香合など優れた茶陶が製作された。京都では楽焼が作り出された。桃山末期には朝鮮半島から来た人々によって新しい技術がもたらされ、各藩は製陶に力を入れ保護奨励した。その結果、高取焼、上野焼、薩摩焼、唐津焼、萩焼など、高麗風のやきものが盛んに作られた。



志野茶碗 銘振袖 [美濃]

東京国立博物館所蔵

江戸時代（江戸期のやきもの）

1610年ごろ李三平が有田（佐賀県）で陶石を発見、わが国で初めて磁器が作られた。さらに有田の酒井田柿右衛門が乳白色の素地に赤絵技法（柿右衛門様式）を完成させ、色絵磁器が生産されるようになった。また鍋島藩は極めて精巧な色鍋島を作りだした。1659年以降、色絵磁器が伊万里港からヨーロッパへ大量に輸出されるようになり伊万里焼とも言われた。18世紀になると、磁器の製造技術が有田から各地に拡がり、京都、九谷、砥部、瀬戸等でも磁器が製造されるようになった。



色絵牡丹文蓋物〔伊万里・柿右衛門様式〕

東京国立博物館所蔵

明治時代以降

明治初期にドイツ人ゴットフリート・ワグネルにより石炭窯の焼成、着彩技術等の新技術が導入された。欧州の窯業技術や材料の全般的な知識を広め、教育者としても大きな功績を上げた。近代では、工業的には石膏型、機械ろくる成形、連続窯（トンネルキルン）など、多くの陶磁器製造が近代化され、併せて窯業の研究や教育も組織的に行われるようになった。



色絵花卉人物図双耳花瓶（名古屋）

東京国立博物館所蔵

5.2 西三河の瓦

■三州で瓦産業が発達した理由

- 1.瓦に適した良質な粘土が浅い地層で大量に掘れた
- 2.矢作川があり、良港にも恵まれ、船便による搬送ができた
- 3.農業には不利な土地だったので、労働力を十分に得られた

■三州が瓦の産地としての機能を発揮しだしたのは、大都市が出現し、一般の住居などにも瓦が使われるようになった1700年ごろと考えられる。

■明治7年（1874）の『府県物産表』によると、1位は京都、2位愛媛、3位山口で愛知県は4位。新製品の開発と製造法の改良、量産化などさまざまな努力の積み上げによって急速に生産量を増やしてきた。

■三州で釉薬を用いて色瓦を焼く試みがなされたのは明治末年。その後、大正末期には緑色、マンガン色のほかに青緑色も出せるようになったとされる。関東大震災(1923)のあと東京で軽い瓦の需要が増え、三州でも薄くても実用に耐える瓦を造った。このとき丈夫にする工夫の一つとして釉薬が用いられた。

■ 三州で最初にトンネル窯を導入したのは昭和 26 年（1951）、急速に増えたのは昭和 34 年（1959）。この年、「伊勢湾台風」に襲われて大きな被害を受けた瓦工場の中から、せっかく復旧するなら被害後の需要に応えられる量産体制を整えようと、トンネル窯に転換する工場が一挙に増えた。

5.3 常滑 常滑焼・土管・タイル

■平安末期 12 世紀のはじめ頃には、知多半島の丘陵地に多くの窯窯 (あながま) が築かれ、山茶碗などが焼かれていた。

■鎌倉時代、壺や甕など大型の器を生産するようになり、大窯の普及とともに常滑に窯が集まり、様々な生活雑器が焼かれるようになった。

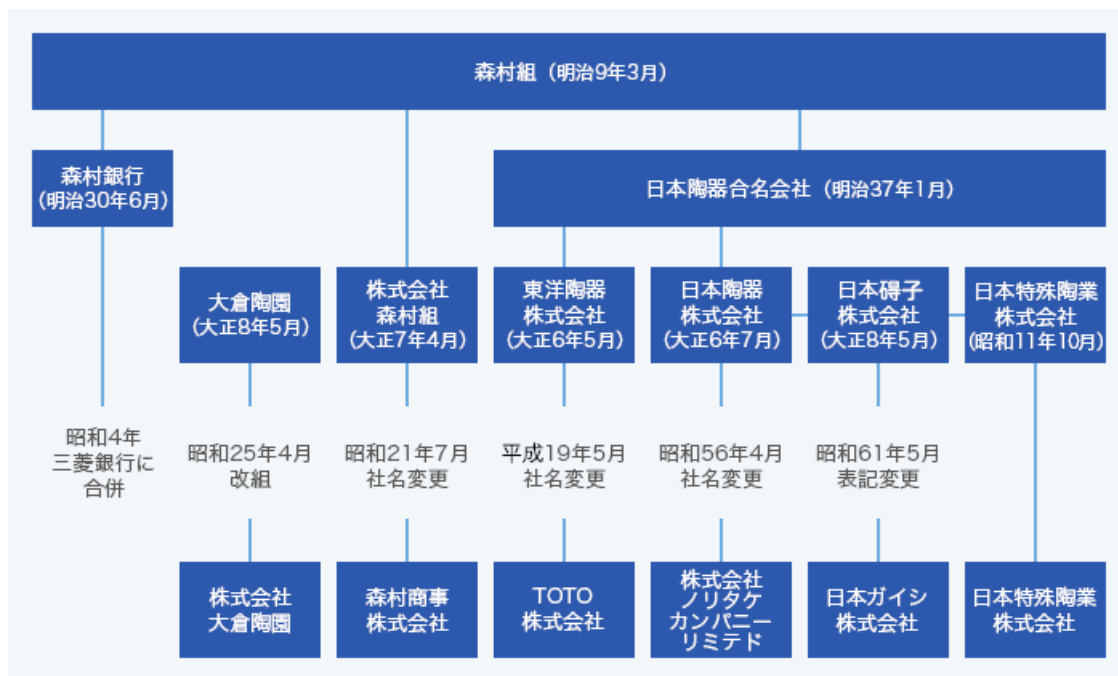
■江戸時代後半、徳利や急須などの生産がはじまり、幕末には朱泥の急須も作られ始めた。明治 11 年 (1878 年) に 中国人金士恒 (きんしこう) を招いて中国の技法を学んだことで、常滑の朱泥急須は 一層発展した。朱泥急須の表面に細字を彫る技法も、金士恒の時から始まった。

■江戸時代末の弘化年間に美濃国の江戸藩邸に「土管」を納めた記録が残っており、明治末年には土管の製造が重要な産業となった。以来、プラスチックパイプの普及する昭和時代まで、盛んに製造された。

■明治時代には西欧の技術が導入され機械化が始まり陶管、焼酎瓶、煉瓦タイル、衛生陶器などの生産が始まった。その後、技術の進歩とともに製品の種類や質、生産額も大きく伸びて現在に至っている。



5.4 森村グループ



Noritake

TOTO

 **日本ガイシ**
NCSHC

NGK | **NTK**
スーパープラグ ニューセラミック
日本特殊陶業

 **森村商事株式会社**
MORIMURA BROS., INC.

OKURA ART CHINA
 **大倉陶園**

森村グループ



6. 愛知陶磁器産業の景観

6.1 統計データから

	窯業・土石製品 製造業の出荷額（万円）
名古屋市	17,181,867
半田市	8,605,786
瀬戸市	4,623,795
常滑市	4,384,732
豊田市	2,881,456
高浜市	2,380,223
みよし市	2,288,970

	製造業全体に 占める比率（％）
常滑市	27.2
岩倉市	22.6
半田市	11.4
瀬戸市	10.3
尾張旭市	7.4
名古屋市	4.8
高浜市	4.6

平成 26 年工業統計表より作成

- 名古屋市の出荷額はほぼ全ての品目にわたる。
- 半田市の出荷額は日本ガイシが中心。
- 瀬戸市の出荷額は、今では化学・電機用製品が主。
- 高浜市は屋根瓦。
- 常滑市は INAX（LIXIL）と常滑焼。
- 豊田市・みよし市はトヨタ自動車の影響。

6.2 高浜の風景 瓦と外国人労働者

日本人 10000 人に対する外国人人口の比率 466 人
これは知立市 499 人に次いで県内 2 番目
県全体の 229 人、日本全国の 141 人よりかなり高い





高浜市やきものの里 かわら美術館

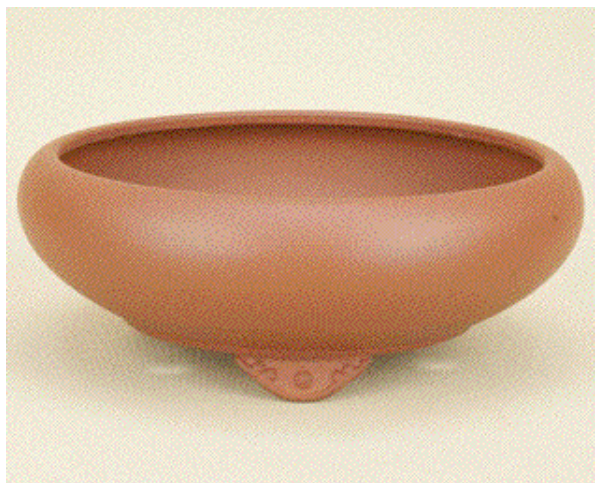
6.3 常滑の風景 国際空港と衛生陶器



INAX の代表作



土管坂



常滑焼盆栽鉢



巨大招き猫

6.4 名古屋 森村の残映



ノリタケ製品



ノリタケの森



日本ガイシの企業イメージ



日本特殊陶業のスパークプラグ

資料

日本セラミックス協会：日本のやきもの
<http://www.ceramic.or.jp/museum/yakimono/index.html>

日本陶業連盟 HP
<https://ssl.alpha-prm.jp/toujiki.org/index.html>

愛知県陶器瓦工業組合：三州瓦の歴史
http://www.kawara.gr.jp/01_rekishi/rekishi.shtml

とこなめ焼協同組合：常滑焼について
<http://www.tokonameyaki.or.jp/Contents/rekishi.aspx>

高浜市やきものの里かわら美術館 HP
<http://www.takahama-kawara-museum.com>

INAX ライブミュージアム (LIXIL) HP
<http://www.livingculture.lixil/ilm/>

ノリタケの森 HP
<http://www.noritake.co.jp/mori/>

森村商事株式会社：森村グループ
<http://www.morimura.co.jp/corporate/group.html>